

## いい時間

飄

々

広報委員

岡山 智亮

2013年12月、当時勤務していた大学病院の病棟忘年会で大騒ぎした後、自宅に帰り爆睡していたところ朝方4時頃に目が覚め、ふと携帯に目をやると妹からの着信履歴にあふれていた。これはただ事ではないと思い、すぐさま電話をかけなおし、父が救急搬送され今から緊急手術になると聞かされた。当時は関西に住んでいたため、この時間に少しでも早く実家に帰るにはどうしたらよいか、二日酔いで使い物にならない頭をフル回転させながら帰途に就いた。手術はうまくいき、父は一命をとりとめたものの直ぐに仕事復帰とはいかない状況もあり、私は実家の医院を手伝うことを決断した。まだまだ医師としての経験も浅く、開業医としてやっていく自信などどこにもなかったが、その時の自分には一ミリの迷いもなかったのを覚えている。地元に戻ってしばらくはめまぐるしい時間の経過で、毎日をこなしていくのにやっとであったのだが、父が仕事復帰してからは少し時間の使い方に余裕が出てきた。しかし、余裕ができるということはあまりいいことではなく、余計なことを考えてしまう時間にもなった。予定外で大学病院から去ることになったこともあり、同期の話がうらやましく感じることも度々あった。

そんな生活を送っていたころ、「いい時間」という曲に出会った。この曲はEVISBEATSという日本のヒップホップアーティストが2012年に発表したものである。私の地元は瀬戸内海に面した町であり、時間ができたときには海岸線を車でドライブすることがある。そんな時にこの曲を聴くととても気分が良くなる。曲のテンポがちょうど

瀬戸内海の波の揺らぎと合っており、そのせいもあるかもしれない。この曲を聴き始めた当初はそんな雰囲気させてくれる曲調に癒されていたのだが、聴きこんでいくと歌詞の内容が自分の考え方を少し変えてくれた。

「この時間のせい この天気の子のせい

この景色のせい この年齢のせい・・・」

自分の身の回りで起きていることのなかには手を加えることのできるものもあれば、そうでないものもある。無理をして手を加えることで、かえってよくない方向に向いてしまうこともあると思う。この曲と出会って、自分が置かれた状況に無理に抗うのではなく、今の状況だからこそできることがあると思えるようになった。

少し話はかわるのだが、今回「飄々」を記している最中、テレビでは東日本大震災から9年経ったことを伝えるニュースが流れていた。被災した方々にとって復興は、今もなお現在進行形であると思う。また、今まさに日本を含め世界中でコロナウイルスに脅かされる日々を送っている。この曲の最後のほうには、「終わりを感しながら眺めて おなかが空いたことに気づいた」という歌詞がある。困難な状況に対して今戦っている各々に少しでも早く「ふとおなかが空いたな」と感じられるような平穏な日々が来てくれたらと願う。

この曲に出会って6年くらい経っているが、いまだに繰り返し聴いている曲の一つで、この曲を聴くといい意味で気持ちをリセットすることができる。こうして出会えた曲をこれからも大切にしていきたいと思う。